

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

祝「黒島の集落」が 世界文化遺産へ

6月30日、ユネスコ世界遺産委員会において、本市の「黒島の集落」を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されることが決まりました。

世界遺産登録への取り組みは、平成19年1月の世界遺産暫定一覧表への記載から本格的に始まり、すでに11年が経過しています。その間には、推薦の取り下げや構成資産の見直しなど、さまざまな苦労もありましたが、ようやく最終的な決定の日を迎えることができ、喜びもひとしおであります。

これもひとえに、市民や関係団体等の皆さまにご理解とご協力をいただきながら、長崎県や関係市町と一体となって取り組んできた努力のたまものであり、全ての関係者の皆さまに改めて感謝の意を表する次第であります。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教禁教期の厳しい生活条件の下、既存の社会・宗教と共生しつつ、自らの信仰を継続していった潜伏キリシタンの人々の歴史を物語る、他に例を見ない遺産です。

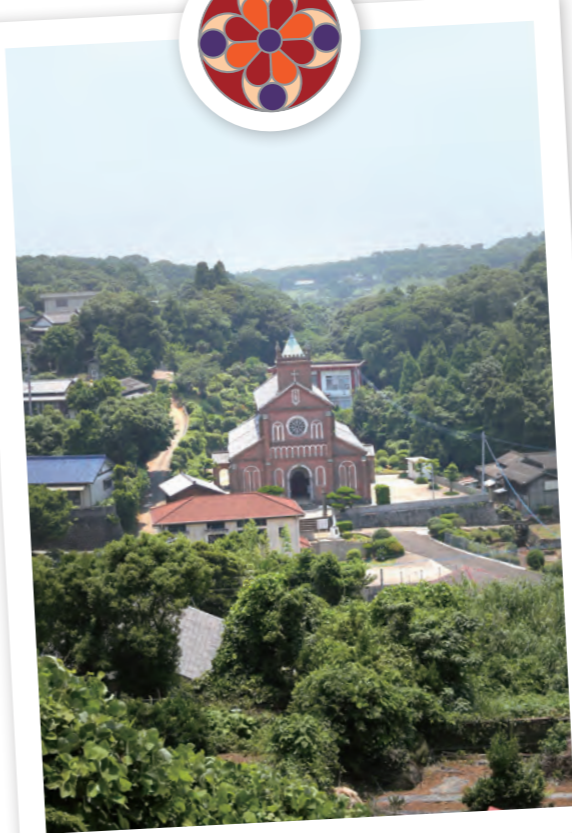


ユネスコ世界遺産委員会の様子をリアルタイムで放映するパブリックビューイングに集まっていた地元の皆さんや関係者など(写真上：黒島地区公民館、下：中央公民館)

これらの遺産のうち、本市の黒島には、潜伏キリシタンの伝統を示す潜伏キリシタンの指導者屋敷跡や墓地、仏像を聖母マリアとして礼拝した仏教寺院があるほか、国重要文化財「黒島天主堂」など多くの文化財も残っています。

本市では、今後も地元黒島地区の住民の皆さまをはじめ、関係各機関等と連携して適切な保存・管理を行い、歴史ある集落を未永く後世に継承していくとともに、積極的な活用にも努め、地域活性化につなげてまいります。

佐世保市長 朝長 則男



「第1回佐世保市広告景観賞」表彰式

6月22日(金)、本市は「第1回佐世保市広告景観賞」の表彰式を市役所で開催し、朝長市長が優秀賞を受賞した大洋物産(塩浜町)と、奨励賞を受賞したフローリスト花紅(栄町)、Café CReBar クレバ(栄町)に表彰状を手渡しました。この賞は周辺の街並みなどに調和した屋外広告物を表彰し、本市のより良い景観につなげようと初めて取り組んだもので、17件の応募があり、佐世保市景観審議会が審査を行いました。表彰式で朝長市長は「看板はまちのにぎわいや魅力を高め、道しるべとしても生活に欠かせないもの。より良いデザインの屋外広告が今後増えていくことを期待しています」と話しました。

まち整備課 ☎ 24-1111



優秀賞を受賞した大洋物産の屋外広告物

施主：大洋物産 設計：デザインショップ 施工：ビコー
講評：海産物のイメージが伝わってくるデザインで認識しやすい。青の配色は佐世保の美しい海を連想させ、自然環境との一体性や風情を感じさせる。壁面の看板に木材を使用したことで柔らかさが表現されている など

シリーズ 世界で最も美しい湾、九十九島 1

九十九島とイルカ 九十九島水族館 館長 川久保 晶博さん

イルカが運ばれてきたときの様子 (平成21年5月27日)



海きららの展示テーマである九十九島の海にはさまざまな生き物がすんでいます。大きいものではイルカ類も九十九島湾内に泳いでやってきます。これまでハンドイルカやカマイルカ、マダライルカなど多くの記録が残されており、マッコウクジラも海きららの近くまで泳いできたことがあります。そのようなこともあり、海きららではイルカを展示し紹介しています。現在2頭のイルカが1日3回のプログラムで、たくさんのお客さまを魅了しています。

さて、このイルカたちですが、実は和歌山県の太地町からやってきました。国内では唯一イルカ漁が実施されているところです。陸

路を13時間かけて運ばれてきました。館長である私は「この手で運びたい」という強い思いを持っていましたので、和歌山県から海きららまで同行しました。トラックが到着してプールサイドまでは、遠いところからやって来てくれたイルカたちに感謝の意を込めて、1頭1頭慎重に運びました。

海きららの飼育方針は、まずはイルカたちの喜びを追及することです。狭いプールの中で退屈しないように手作りのおもちゃを入れたり、時間があればスタッフがイルカたちとよく遊んだりしています。その結果、人懐っこい元気なイルカに育っています。皆さん、海きららの元気なイルカたちをぜひ見に来てください。

観光課 ☎ 24-1111

